

9 月例会「WORTH(ワース)-命の値段-

全国映連・やんばるフェスティバル参加報告

今年の夏はいつになく暑い日々が続いています。昼も夜もエアコンが入りっぱなし 熱い!! みなさん体調崩していませんか?

7 月例会『巡礼の約束』はいかがでしたか。

感想が 50 通寄せられました。五体投地(両手・両膝・額(五体)を地面に投げ伏して祈る)をしながら進む、日本ではあまり見聞きしないチベットの巡礼。死生観、宗教観、家族のきずなを考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。

また、スマホの着信音が鳴っていた、マナーがなくていない、クーラーが効きすぎだとかのご指摘がありました。会場温度設定には今後気を付けていきます。また、お互い気持ちよく映画を観賞するために、スマホの電源を切る・マナー設定にするなどお互い気をつけましょう。

当日の会場要員がたりません。1 時からの設営準備と 8 時 45 分終了後の片付けのお手伝いいただける方募集します。ご協力よろしくお願ひします。(和)

例会のお知らせ

■名称/第131回例会「WORTH(ワース)-命の値段-

■日時/2024 年 9 月 11 日(水)

①PM2:00~、②PM4:20~、③PM6:40~

■場所/加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ 600m)

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。入会手続きしていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル/WORTH(ワース)-命の値段-

■監督/サラ・コランジェロ

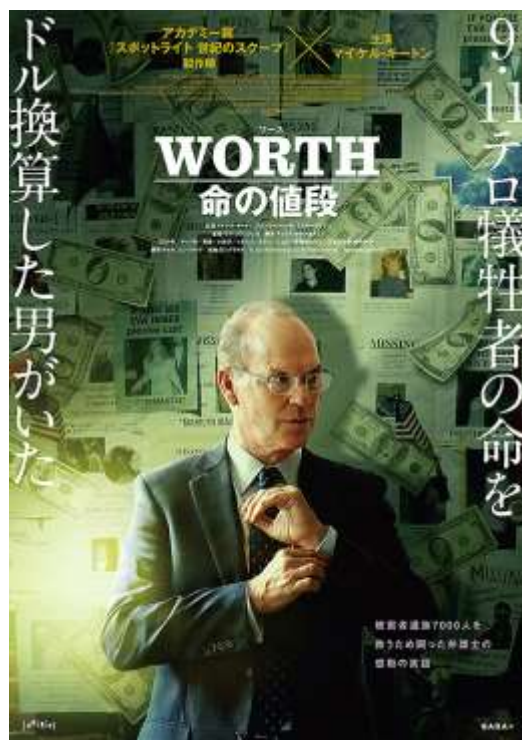
■出演/マイケル・キートン、スタンリー・トゥッチ、エイミー・ライアン、テイト・ドノヴァン

■データ/2019 年、アメリカ、118 分

■ジャンル/社会派ヒューマンドラマ、テロ被害者

■ストーリー/アメリカ同時多発テロ被害者の補償金分配を東ねた弁護士の実話を映画化した社会派ドラマ。

2001 年 9 月 11 日に起こったアメリカ同時多発テロを受け、米政府は被害者と遺族救済を目的とした補償基金プログラムを立ち上げる。その特別管理人を任された弁護士ケン・ファインバーグは独自の計算式により、個人個人の補償金額を算出する方針を打ち出すが、被害者遺族が抱えるさまざまな事情と、彼らの喪失感や悲しみに接する中で、いくつもの矛盾にぶち当たる。チームが掲げる対象者約 7000 人の 80% の賛同を得る目標に向けた作業が停滞する一方で、プログラム反対派の活動が勢いづいていく。期限が迫る中、苦境に立たされたファインバーグはある大きな決断を下す。



やんばるフェスティバル in 沖縄県名護市

7/27. 28、台風だけが心配でした。が、滞在中は天候に恵まれ往復の飛行機では、種子島、奄美大島、与論島等をキレイに見ることが出来ました。名護市にあるやんばるシネマさんと全国映連との共催での初沖縄フェスティバルということでとても楽しみにしておりました。

しかし、当初企画されていたものと大幅な変更があり(監督の講演会中止、上映会は 2 本→1 本)、行く前は「せっかく沖縄まで行くのに、なんだかなあ〜」というモヤモヤを抱えていました。そして、28 日に予定されていた

辺野古埋立地の海上視察が台風の影響で波が高く、船に乗っての視察が中止とのお知らせは、更にガクリとなりました。

しかし、視察の変更に伴い辺野古漁港のテント村での地元の元議員さんによる辺野古の現状等のお話は、前に広がる穏やかな辺野古の海を眺める私に問いを与えてくれるものでした。お話の中で引用された文章を紹介します。「共産党が迫害された。私は黨員でないからじっとしていた。社会党、が弾圧された。私は黨員でないからやはりじっとしていた。学校が新聞が、ユダヤ人が弾圧された。やはり私はじっとしていた。教会が弾圧された。私は牧師だから、行動に立ちあかった。しかし、そのときは、もう遅すぎた(ナチス時代のドイツの牧師マルチン・ニーメラ)」、このままだと本土も沖縄と同じ様になりますよ。食い止めなければ。映画の仲間でも立ち上がって欲しい。と。

そして、その午後からあった上映会『奇跡の小学校の物語』(宇都宮市の実話をもとにしたドキュメンタリー:これがまた予想に反してとても良かった。)を会場である名護市中央図書館の映画ホールで地元の人たちと観賞しました。やんばるシネマさんは2017年に発足。一時中断後2023年より、この会場で月1回上映を開催しているものの毎月赤字はスタッフで補填しているそうです。その真意は、映画館がなくなってしまった名護市に「映画鑑賞の場を提供したい。」ただそれだけですと言われる姿にやんばるシネマさん流映画愛を感じました。毎回平均70名の参加数で、100名に達すると赤字は解消するとのこと。名護市のみなさん!映画を観に来てください!加古川よりエールを送ります!

さてさて、行く前はモヤモヤしていた私でしたが、終わってみれば「行って良かったな〜」『にふえーでーびる(ありがとう)』

追伸:来年の開催中は北海道(え〜!!)と聞きました(はてはて) (千)

前回の例会報告

7月18日(木)の7月例会では、チベット人監督ソントルジャによる、美しくも峻烈な風景の中、聖地ラサへ旅する妻とその家族を描いた『巡礼の約束』を鑑賞しました。

参加者からは、美しいチベットの風景と家族の結びつきに感動したことをはじめ、作品の中の家族がもつ宗教的な感覚や監督による表現が日本のそれとは異なるため素直に理解できないところがところどころにあったことなど、いつもと比べ多くの感想がありました。

参加会員98名、ほか明石シネマクラブから12名。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/第85回特別例会『島守の塔』(2022年、日本、130分)

■監督・脚本/五十嵐巧

■出演/萩原聖人、村上淳、吉岡里帆、池間夏海、柄本孝明、香川京子

■ジャンル/戦争、ヒューマンドラマ

■解説/太平洋戦争末期の沖縄を舞台に命や平和の尊さを描いた戦争ドラマ。「鉄の暴風」と呼ばれた激しい空襲や艦砲射撃、そして上陸戦により、約20万人が犠牲となった太平洋戦争末期の沖縄戦。絶望の淵に立たされながらも「命こそ宝」と訴え後世に希望を託した戦中最後の沖縄県知事・島田叡と職務を超えて県民を守るべく奔走した警察部長・荒井退造と、戦争に翻弄される沖縄の人々の姿を描き出す。

■日時/10月16日(水)

①AM10:30、②PM2:00—、
③PM4:40—、④PM7:10—

■場所/アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■今回は一般の方が有料(一般1300円、65歳以上1100円など)で鑑賞できる特別例会です。

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 125 人(7月18日現在)

